

## キリンの解剖

高山達子

2021年8月1日、静岡市立日本平動物園とふじのくに地球環境史ミュージアムの間で「動物調査研究等の連携協定」が結ばれました。これにより、日本平動物園で死亡した動物は、ミュージアムで標本化し、お互いに展示、研究等に使われることになりました。

今後の体制作りを考えていたところ、8月24日キリンのサクラが出産中に死亡するという悲しい出来事が起こりました。サクラの遺体は日本平動物園で、まずは死因確定のための解剖が行われ、各部位（頭部・頸部・腹部・骨盤・手足）に切断され、その日の内にミュージアムに運び込まれました。

その夜、ミュージアム研究員の西岡さんから、ほねほねメンバーで翌25日に手伝える人の募集がありました。8人ほどが（半日だけという人もいますが、それぞれ可能な範囲で）手伝うことになりました。

25日朝、ミュージアムに到着すると、既に西岡さんが作業を始めていました。到着した人から、それぞれ担当する部位が割り当てられ、屋外（駐車場横の水道場）と、解剖室に分かれて作業を始めました。総勢、12名くらいの人で、淡々と除肉作業をすすめました。

私は骨盤を受け持ち、炎天下で、汗だらだらになりながらの作業でした。今まで見てきた骨の中で、大きかったものとしては、クマとかカモシカがありました。キリンの骨盤はもちろん一番大きいのですが、身体全体からすると思ったほどは大きくない印象をもちました。

隣ではキリンの特徴的な首の骨を除肉しています。哺乳類の頸椎は7個で、これはネズミもキリンも同じ数です。同じ7個なのに、キリンの首はとてつもなく長いです。1個1個の頸椎の大きさにびっくりします。担当している人と「キリン解剖記（郡司芽久著）」の記述が話題となり、「この骨がもしかしたら、本に出てきたあの骨かも」などと盛り上がりながら、作業を進めていきました。



作業風景



水浸け前の状態



骨盤

まるまる1日かけて、除肉作業はほぼ終わり、部位ごとに大きなバケツに収めました。体育館裏に運び、水を満たして、水浸けにし、除ききれなかった細かな肉を腐らせます。半年後の来年の夏頃には、水から取り出し、水洗いをして、乾燥させる予定です。綺麗な骨格標本が出来上がり、皆さんにご紹介できる日が来るのが楽しみです。